

新 紙

に先づ軌條と敷き線路を造り列車の往復を始めて後漸くに踏切を設け或は水吐を作るの始末されば其工事の粗あると争ふ可からず、築堤の法の如きも英國よりも英風は鐵石材にて架する處を英國風は木材にてば煉瓦にて築き、石材にて盛むべに處を米國に於ては假りに木材にて其用を充たし若くは橋梁の作りに至りても英國風にそれは斜面を緩勾配を平にして粉砂利と以て悉く線路と固め又軌條の作りに付て言ふも英國にては兩頭軌條とて裏表に溝と設け表面の溝跡に磨擦し盡て其用を爲さる時、裏返しに使用をも法の如きを最初英國人の工夫に出でたる者にして其外建築の堅牢、工事の美麗英國の鐵道遂に米國の上に在るは勿論なりと雖も同時に費用の點に於て工事堅牢の利益は一方の費用を償ふて尙ほ餘りある可きや否やと云ふに是に至り大に考へなきる可からず或は英國ならば民力富強なるが故に工事に多くの金を投するも意とせざるけ當然なれども日本は之に反対し自ら貧弱と以て居らざる可からざる地位あれは此際、英國の風と學び鐵道に夥多の費用を投つは大に分別と要する事あれども我輩は英國鐵道建築の堅固を賞賛して止まざる可けれども今日の日本に處して若し外に費用少に利便の鐵道あらば彼を捨てし此を取るの手段大なりと信する所以にして前條、米國の鐵道を日本に移し用ふるの利便を説きたるも亦右の旨趣に外ならざるあり

我輩斯くの如く日本に米國の鐵道を移すの得策なると陳辨したらば世人或は其論米國の爲にする所あるを嫌ふ者もある可しと雖も元來吾輩の眼中には英國もなければ又米國もなく獨り日本の經濟よ着眼して只管此點より優劣を判断するに外ならず夫にても尙ほ世人中、吾輩の議論の材料を米人の手に出づるとして疑ふ者もあらんかあれば重て爰に此嫌疑を避くるが爲め英人自身の議論を次ぎに引證し以て一層我輩の論據と確めん

卷之三

○英國保守黨の不和　此程の本紙電報欄内に掲げたる如く本月廿三日英國保守黨の大會議^{大會議}又於て總理大臣ソールズベリー侯は今日黨員^{黨員}が一致協力するの必要を論じ若し然らずは黨員^{黨員}の分裂は到底避くべからずと述べたる由あれバ現今保守黨内閣も稍や勢力を失ひしに似たりと雖も去る廿六日の横濱ヘフード新聞^{横濱ヘフード新聞}に説をあして曰く世人は突然英國政海不穏^{英國政海不穏}の電報に接し一驚を喫せしるべし余輩は最近の歐洲諸新聞^{歐洲諸新聞}を閲讀し英國保守黨不和^{英國保守黨不和}の原因を探らんとせしも今日ソールズベリー侯が遽かに大會議^{大會議}を催して黨員^{黨員}を結合せるの必要を感するに至りし程の一大原因を観見する能ざるなり然れば昨日の電報は英國內閣の爭論^{英國內閣の争論}と大會すべき事實を報道せし者に有ざる可し近來英國保守黨中にて彼の有名なるランドルフチャーチル卿が屢々保守黨員^{保守黨員}の意見に反対する行爲^{行爲}となせると又一方に於て今回内閣より提出したる地方自治案の數條は黨員^{黨員}の豫想外に出で黨員中鑑々の聞えあるナヤツプリン氏等は大に該議案に合^合を悪しくせしは明白の事實なればソールズベリー侯が隨時に會議を催して黨員^{黨員}に一致結合の必要を勧めし迄の話なるべし又大藏總裁スミス氏に對し保守黨員^{保守黨員}不滿^{不満}を感せし様子なれ共同氏は世故に老練^{老練}に政務に長けたる人物なりと云ひ且つ昨日の電報に見ゆる如く同氏の信用如何を會議^{會議}に附し之を可決したる由なれば敢て驚く可き事にあらざるあり何は兎も鳴れ今日保守黨と聯合黨の團結堅固^{團結堅固}なる以上はクフワードストーン氏如何に黨勢^{黨勢}を振起するあるも内閣の更迭を見る鶯はざるべし云々

卷之三

○英國保守黨の不和　此程の本紙電報欄内に掲げたる如く本月廿三日英國保守黨の大會議^{（大會議）}於て總理大臣ソールズベリー侯は今日黨員が一致協力するの必要を論じ若し然らずは黨員の分裂は到底避くべからずと述べたる由あれど現今保守黨内閣も稍や勢力を失ひしに似たりと雖も去る廿六日の横濱ヘフルト新聞ハ説をあして曰く世人は突然英國政海不穏の電報に接し一驚を喫せしるべし余輩は最近の歐洲諸新聞を閲讀し英國保守黨不和の原因を探らんとせしも今日ソールズベリー侯が遽かに大會議^{（大會議）}を催して黨員を結合せるの必要を感ずるに至りし程の一大原因を發見する能ざるなり然れば昨日の電報は英國内閣の爭議^{（スルム）}と大書すべき事實を報道せし者に有ざる可し近來英國保守黨中にて彼の有名なるランドルフチャーチル卿が屢々保守黨員の意見に反対する行為をなせると又一方に於て今回内閣より提出したる地方自治案の數條は黨員の豫想外に出で黨員中諸々の聞えあるチャップリン氏等は大に該議案に反対の意見を抱けると云二原因相合して稍や黨員の折合を悪しくせしは明白の事實なればソーラズベリー侯が隨時に會議を催して黨員に一致結合の必要を勧めし迄の話なるべし又大藏總裁スマス氏に對し保守黨員は不滿を感せし様子なれ共同氏は世故に老練^{（ローリン）}政務に長けたる人物なりと云ひ且つ昨日の電報に見ゆる如く同氏の信用如何を會議^{（ミーティング）}に附し之を可決したる由なれば敢て驚く可き事にあらざるあり何は兎も鳴れ今日保守黨と聯合黨の團結堅固なる以上はグッドストーン氏如何に黨勢を振起するあるも内閣の更迭を見る鶯はさるべし云々

實に救助の思
のは原因事情
控へ臥榻の傍
ふするの餘暇
るす耽^{たま}を裂^さ
佛獨は互^{たが}相
ば佛國の東京
に展^{ひら}はす可^べら
を助くるなれ
後に飛んで支
るは左はせ難
く強大の開^{ひら}え
も一體其人民
策を以て傾分^{かたわら}
其内國にてそ
もりて榮花を
洲中^{じゆちゆう}に小帽^{こぼう}と
刀細工たるべ
海運の駆未^{くわい}づ
て月日淺^{うぶ}きよ
思はるゝ次第^{じで}
は述^{のべ}も遠征の
鎌先と競^{あつ}ふて
左れば支那全^{ぜん}
西藏の方は英^{えい}
して幾年^{いく}年の後^ご
の雄圖^{ゆうず}と大仕^{しつ}
んと亦笠竹^{かし}ざ^さ
ざることなる
と云へり
○新博士^{じんぱく}
を授與したる
士に同學位を
○教員及第者^{きょういん}
検定試験は開^か
て得點數の調^{しらべ}
名わり追て各^{かく}
都合なりと
○中野初子氏^{じゆうし}
進歩せし實況^{じじきう}
て我國へ來着^{らいちく}
いふ
○フンデフエ
エル氏は今度
の特命と受け
て我國へ來着^{らいちく}
るを以て一の
三村戸長^{さん}西^に
禁^{きん}門^{もん}二月十五^{じゅうご}
判所公判廷^{こうばんてい}に
同被告三名は